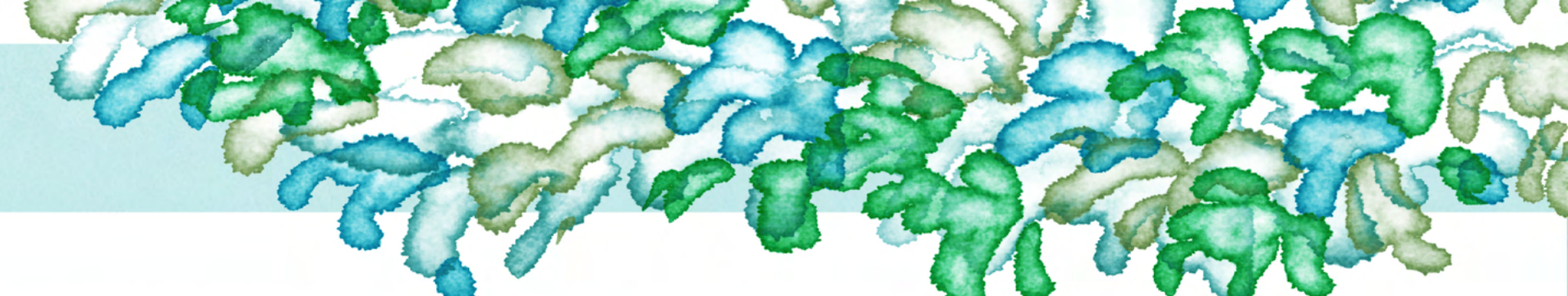


# 植物を囲う家



## 北西から屋外庭園及び屋内庭園を見る

屋内庭園部分の空間が、屋外庭園に出ている。どの階から見ても植物が感じられるように計画した。バース右側は屋内庭園へ入る前の空間。ここには、今後増えていくであろう植栽のためのスペースとして配置した。

## コンセプト「常に植物と暮らし、働く」

様々な状況下で日々の生活は変化を求められている。新型コロナウイルスの感染が拡大した際には、人々の生活は大半を自宅の中で過ごす必要がなくなった。プライベート空間である自宅に求められたのは、リモートワークをする為の空間を作ること。子育てや家事などで忙しい自宅の中に、ワークスペースを作り出すことは多くの課題を生み出し、その解決が急がれた。

私は、自宅でリモートワークをすることの課題の中で、「切り替え」という観点に着目した。生活から仕事へ、仕事から生活への気持ちの切り替えは想像するよりも難しいことである。

そこで、「切り替え」を自宅内でする為に、自宅での「植物」とワークスペースのあり方を提案する。人は植物を見たり、触れ合うと気持ちが落ち着く傾向にあると考える。ワークスペースの配置を、植物と触れ合える場所の近くや、場所ごとに植物の見え方に変化を付ける。植物の感じ方の変化が、ワークスペースまたはそれまでの道に違いを生じさせ、空間での感じ方に差が生まれ、自然に生活と仕事の「切り替え」が可能になると考える。秋田県という環境下で、「常に植物と暮らし、働く」住宅の一つの形を提案する。

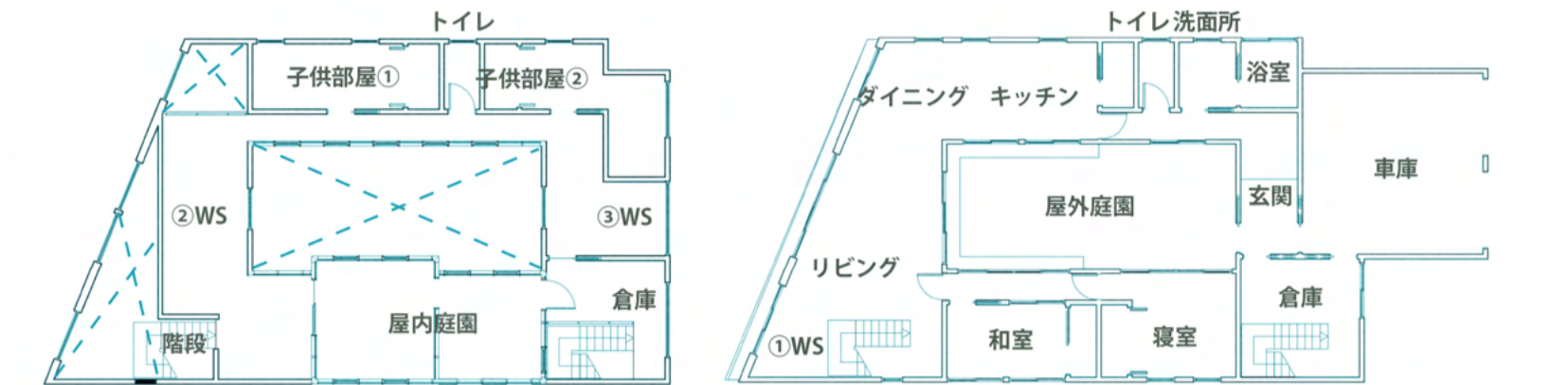


図2. 平面図 (縮尺1:200)  
(左:2階 右:1階)

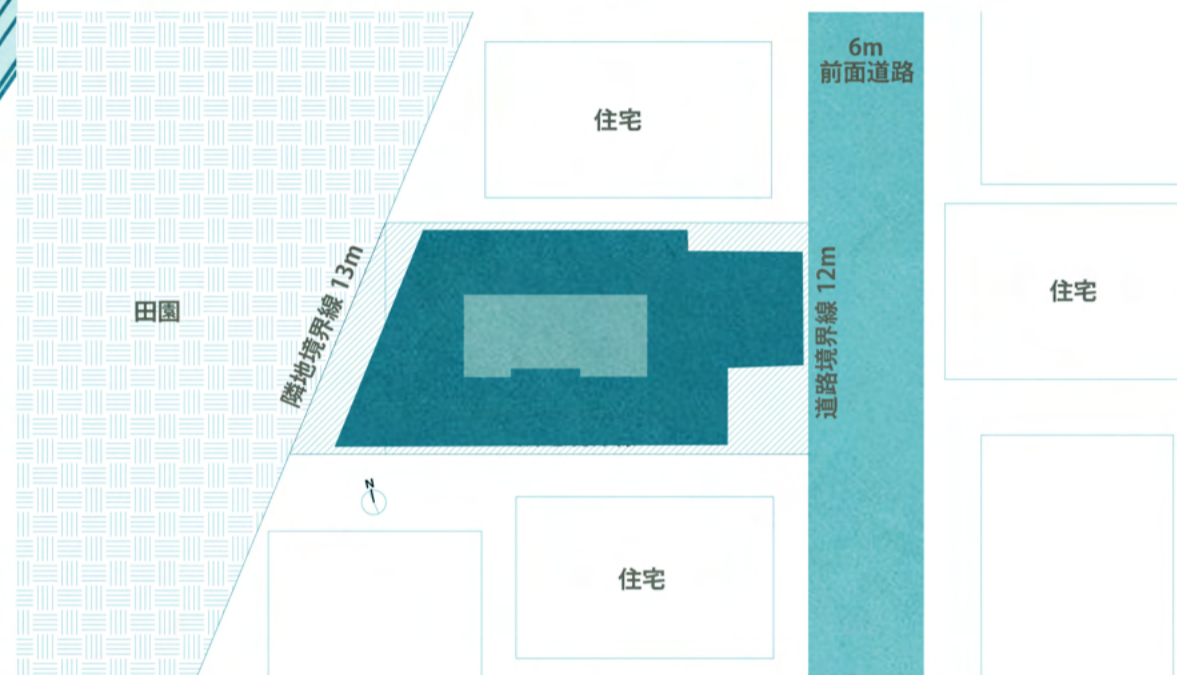


図1. 配置図

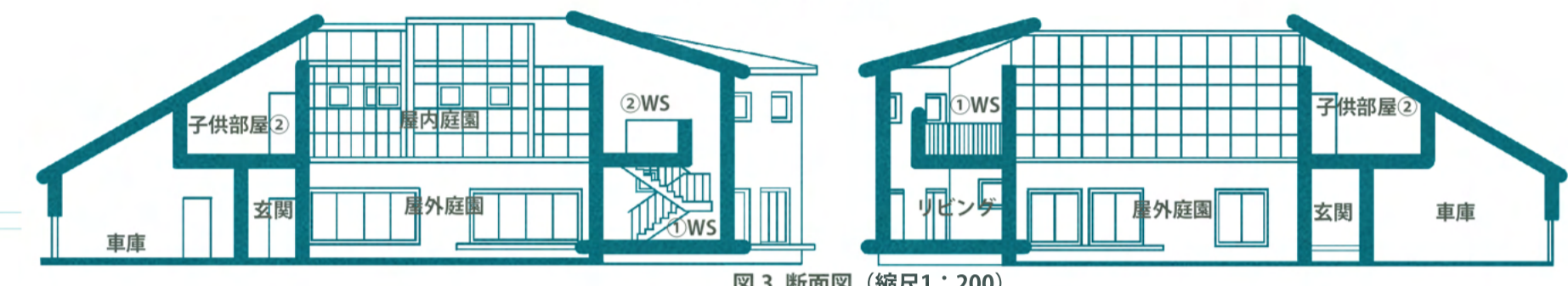


図3. 断面図 (縮尺1:200)  
(左:東西断面図 北から見る 右:東西断面図 南から見る)

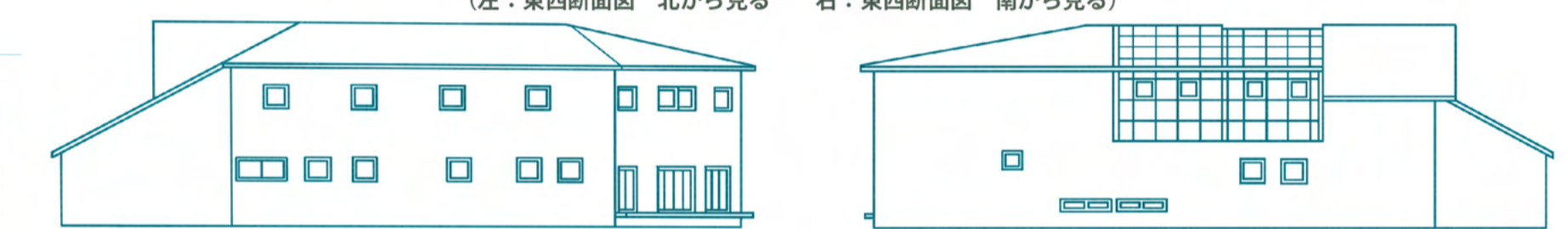


図4. 立面図 (縮尺1:200)  
(左:北側立面図 右:南側立面図)  
一階面積:177.35㎡ / 二階面積:127.84㎡  
延べ床面積:307.19㎡ / 建築面積:179.35㎡

## 0. 設計条件

- 0-1 敷地条件**
  - 第一種住居地域
  - 防火地域指定なし
  - 建蔽率 59.8%
  - 容積率 102.4%
- 0-2 設定敷地の周辺環境** … 秋田県由利本荘市
  - 西側は田園風景が広がる。南北側は住宅と面している。東側は前面に道路が通り、道路を挟んで向かい側も住宅という住宅地に位置している。
  - 秋田県由利本荘市の沿岸部に比較的に近い立地である為、北西からの風など年間を通して強風が吹く。秋田県内陸部よりも積雪量が少ないが、強風の影響で寒さが厳しい。

- 0-3 居住者設定**
  - 父 32才… 出身は秋田県由利本荘市。職業はデザイナー。大学進学をきっかけに都心部へ上京。卒業後数年間デザイン事務所で働いていたが、地元の知り合いから声かけがあり、将来的には自身の両親とともに暮らしたいと考えていた為、これを機に地元へリターンし働くことを決意。地元での生活である為、秋田県由利本荘市での暮らし方を知っている。
  - 母 30才… 出身は都心部。職業は編集記者。元々土地に執着しない性格なので、様々な地域に対して興味があり、今回の秋田県由利本荘市も初東北地方への進出であった為、とても楽しみにしている。これを機にリモートワークが中心となるので、しっかりと両立しようと意気込んでいる。趣味はガーデニングと旅行などで訪れた地域についてブログを書くこと。冷え性である為、寒さにはめっぽう弱い。
  - 長男 5才… 最近楽しかったことは実家に帰省した時にやった冬のそり遊び。
  - 次男 2才… 何が起きているかよく分からないが犬といれば大丈夫と思っている。
  - 愛犬 3才… ゴールデンレトリバー。

## 1. 着目した課題

### 1-1 子育て世代の在宅ワーク

子供がいると目が離せないため仕事に集中できない

毎日同じ風景で気分転換が出来ない

普段生活する場所で仕事への切り替えが難しい

図5. 子育てと在宅ワークの両立をする上での課題

▷「住み続けていく中で暮らしと仕事の両立が可能な住宅」「多種多様なワークスペースのあり方」について考える。

### 1-2 秋田県由利本荘市の環境

まず、秋田県の12月から3月の時期は毎年積雪が観測される。秋田県では沿岸部では積雪とともに強風が吹き、内陸部では日本海で多くの水分を含んだ雲によって大きな積雪量を誇る。この環境下では、子供は積雪を見るとソリや雪合戦などの雪遊びを通して喜ぶ姿が見られるが、大人はどうだろうか。積雪に向けた自家用車のタイヤ等の準備、連日の雪かき、凍った路面での運転、水道管の凍結に心配をするなど毎年冬を越すのにも一苦労である。

秋田県由利本荘市は秋田県沿岸部の県南に位置している。桜の咲く春から夏までは風は心地良く感じるが、9月頃から朝夜が冷え込み始め、冬には強風によって雪吹雪が生じ、視界が遮られたり、寒さが増すなど、厳しい環境となる。

▷「都会から移住した人が、秋田県由利本荘市で年間を通して暮らしを楽しむ方法」を考える。

これら2つの課題に対して、「変化のあるワークスペース」「冬を楽しむ庭」という2項目から新しい働き方によって家族との絆が深まる住宅を設計する。

### 2. 提案

#### 2-1 変化のあるワークスペース

住宅というプライベートな空間の中に、形状の異なる複数のワークスペースを配置し、植物との関係性の変化を生み出した(図6より)。まず、西側から東側にかけて、家族全員が過ごす開放的な空間から、各個人が生活だけでなく、仕事や趣味で過ごす閉鎖的な空間にし、植物との関係性の度合いに変化を付けた。植物との関係性が大きいとより癒される空間になると考える。

①「風景を眺める」ワークスペース (図9より)  
家族が過ごすダイニングやリビングのある空間の一角に、一人で過ごす空間を配置。広いリビングの隅という閉鎖的な空間だが、リビングから奥のダイニングまで見通せる。家族と過ごす時は見守りながら一休み、一人の時は田園を眺めながら仕事をするなど、「日常の風景」に触れながら時を過ごす。ここは田園風景の広がる西側と屋外庭園の様子を最大限見て、触れることができる。

②「家族と育む」ワークスペース  
「ワーク」をするのは大人だけじゃない。子供は成長にするにつれ、「ホームワーク」をし始める。成長していく子供が自分の部屋だけに籠らずに、この空間も利用して、いつになっても家族みんなで教え合いながら、今日何があったのか話しながら、勉強や仕事をする。ここは視覚的に植物を楽しむ。屋外及び屋内庭園を見ることが出来る。

③「静かに佇む」ワークスペース  
道路や住宅に囲まれ、家族が過ごすリビングから最も離れた東側に設けた、閉鎖的な空間。人の通りも少なく静かだが、他の部屋や車庫や屋外庭園からの光が開口部から差し込み、人の気配を感じることができる。安心感のある静かな空間であるため、仕事や勉強、趣味に集中したいときに使用する。比較的植物とは離れている場所である。

図6. 断面から見た各部屋の関係  
WS: ワークショップ

図7. 平面から見た各部屋の関係

#### 2-2 冬を楽しむ庭

住宅内に2つの庭を計画した。住宅の中央部に位置する屋外庭園と南側2階に位置する屋内庭園である。秋田県由利本荘市で「常に植物と暮らし、働く」為に庭のあり方を考えた。

①屋外庭園  
ここは木などの比較的大きい植栽を数本のみ配置し、居住者がこの空間でアクティブに動くことができる庭である。春から秋には植栽の移ろいを楽しみ、冬には雪で遊ぶことができる。住宅の中央に配置した理由として、居住者のプライベートを確保しながら、のびのびと動くことができる点と冬場の強風を防ぎ、冬でも外で快適に過ごすことができるという点が挙げられる。

②屋内庭園  
ここは植物を育てる為の空間である。居住者がガーデニングを趣味としており、趣味の場として配置した。冬でも採光を確保できる南側2階にガラス張りの空間を配置した。冬の強風を防ぎ、年間を通して植物を楽しむことができる。また、この空間の明かりが日が落ちた時間帯や雪吹雪で視界が遮られる際に住宅内部及び屋外庭園を照らす電球のような存在となる。

図8. 断面から見た季節ごとの庭の使い方

図9. 「風景を眺める」ワークスペース

図10. 屋内庭園  
年間を通して植物に触れ合うことで、田舎の子育てやリモートワークでの気分転換など繋がる。また、椅子やテーブルを配置することによって休憩やワークスペースにもなる。